

人類滅亡、12のシナリオ

オックスフォード大学等の公表したレポートより



保険研究部 主任研究員 安井 義浩
 yyasui@nli-research.co.jp



やすい・よしひろ
 87年日本生命保険相互会社入社。
 12年ニッセイ基礎研究所(現職)。
 日本アクチュアリー会正会員、
 日本証券アナリスト協会検定会員。

今年2月中旬、「12 Risks That Threaten Human Civilization^{*1}」というレポートが公開された。報道では、「人類滅亡、12のシナリオ」などと紹介されているようだ。

このレポート作成に携わったのは、英国のオックスフォード大学やその傘下のフューチャーヒューマニティ研究所の科学者、スウェーデンにあるグローバルチャレンジ財団、そしてその他金融・経済の専門家などの錚々たるメンバーである。

その12のリスクとは…。

【現在進行中のリスク】

1. 極端な気候変化

地球温暖化など極端な気候変化が引き起こす飢餓・社会崩壊

2. 核戦争

以前懸念された全面核戦争の可能性は低くなったが、突発的に起こる可能性は、まだ無視できない。

3. 世界規模のパンデミック

人々の往来の激しさ、速さは増しており、感染症が発生した場合、大流行する可能性が高まっている。

4. 生態系の崩壊

環境汚染などにより、生物種が絶滅する速さが増す。

5. 国際的なシステムの崩壊

世界経済がグローバル化して、経済危機や貧富の差が拡大し、社会混乱や無法状態をもたらす。

【外因的なリスク】

6. 巨大隕石の衝突

衝突地域が全滅するだけでなく、生じる塵が地球を覆い、寒冷化や生態系

の破壊をもたらす。

7. 大規模な火山噴火

塵による日光遮断と寒冷化。それが飢餓や政治的混乱を引き起こす。

【新たなリスク】

8. 合成生物学

人工的な病原体の生成など。(映画「バイオハザード」)

9. ナノテクノロジー

小型核兵器の開発への転用

10. 人工知能

制御不可能になった人工知能独裁者や膨大なロボットの出現。(映画「ターミネーター」)

11. その他の全く未知の可能性

【国際政治のリスク】

12. 政治の失敗による国際的影響

問題発生時、まずはその国で適切に対処しないと、問題が世界全体に拡がり、悪化させることに。

上記11.その他の未知の可能性の一例として、「人類を不妊にする超汚染物質の開発」「人工ブラックホールが地球を飲み込む」「動物実験により人類を超える知的生物が出現」「誰かが地球外生命(ET)にコンタクトし、危険な異星人(エイリアン)の注意を呼び寄せる」が、挙げてあった。過去にばかげていると評されたことが、現実の脅威となるケースもあるので、まずはどんな可能性も否定できない。

このあとレポートは、それぞれのリスクの関連性や、リスクを軽減できる可能性な

どについて述べている。例えば政治の失敗など人間のやることは、防ぐことは比較的易しい一方、隕石・噴火などは防ぎようがない。ただし被害を最小にはできる。最も厄介なのが、少し意外だが「人工知能」で、一旦暴れだしたら、人間には止められないから、とのことだ。

このレポートの狙いは、関係者が各種リスクの知識を得て、対応に向けた努力や協力を促すことであるという。

その際の態度や考え方として、最後に、以下の10項目が示されている。

1. 世界規模のリーダーシップ・ネットワークを構築すること
2. リスク査定能力を育てること
3. 危機探知システムを構築すること
4. 複雑な社会システムを視覚化すること
5. リスクを減らす方策を強調して伝えること
6. あらゆる可能性に注意すること
7. 巨大リスクへの関心を高めること
8. 巨大リスクを明確に説明すること
9. 地球規模のリスクに対する指標を政府が確立すること
10. 「世界リスク機構」の設立

個人や企業ではどうにもならないリスクもあるが、対応の考え方については、企業の通常のリスク管理(特にエマージングリスク)の際、何かヒントにもなると思う。

[*1] <http://globalchallenges.org/publications/globalrisks/about-the-project/>